

科目 竹工芸

## 門 田 篁 玉（本名 頼男）先生

1916年（大正5年）福山市 生まれ

### 経歴

1933年（昭和8年）別府市門田二篁氏に弟子入り

1935年（昭和10年）別府市特産品展覧会で1等賞受賞  
大分県知事賞（3回連続受賞）

1971年（昭和46年）県美展入賞

### 主な受賞歴

メトロポリタン美術館「日本の美術 琳派の美学」に展示の後に収蔵  
日展入選（昭和48年 初入選以降9回入選）

光風会入選

日本現代美術工芸展入選

日本伝統工芸展入選（昭和62年から23回入選）

山陽新聞社賞（文化功労賞）受賞

天皇陛下に千鳥編花籃献上（平成8年）

広島ホームテレビ 文化賞受賞

広島文化賞（平成9年）

常陸宮殿下に鳳尾竹煤竹鎧花籃献上（平成12年）

地域文化功労賞（知事賞）（平成18年）

地域文化功労者表彰文部科学大臣表彰（平成19年）

日本伝統工芸展木竹工部会功労賞（平成27年）

**「新しいものを創作」**… 時には漆にかぶれて高熱にうなされながらも毎日朝6時から夜は10時まで仕事に励まれました。常に新しいものを追究されました。休みは月に2回だけ。共同浴場の温泉に行くのが楽しみだったようです。

**「独自に創作した実用品の竹ざる」**… 「10里以内の人はみんな使っている」と評判でしたが、昭和44年頃からプラスチック製品に押され厳しい状況になったそうです。

### 「努力している人に転機が訪れる…世界が目する造形…」

見知らぬ男性が訪ねてきて、天満屋画廊に紹介されました。すぐに個展が開催され、個展は空前絶後の連続30年間続きました。

### 健康のために

ここ何年も自分で作った甘酒を毎日飲んでおられます。作る時には身を整えておられるそうで神聖な感じがしますね。 文責 学長 吉川



科目 **園芸**

## **藤本大生先生**

1947年（昭和22年）福山市 生まれ

経歴

1969年（昭和44年）大学農学部卒業

同年 県の職員として就職

2006年（平成18年）定年退職

同年 JA福山市に再就職



### **大学の農学部を選んだのは…**

農業が好きで作物を作りたかったし、努力すれば成果が出るものと思って農学部に入りました。当時の大津野の町長が南斜面の温暖な気候を利用して夏ミカンの栽培を推奨して多くの農家が取り組んでいました。しかし、本当に夏ミカンがいいのかどうか疑問を持っていたのです。

### **経営の観点から方向転換されました…**

専業農家として経営して自立するには規模の問題があることが分かったので、農家の指導の方に転換しました。

農業の担い手の育成、農家の所得向上のための生産・経営技術の普及のために力を尽くしました。今は営農指導員として講習会や営農相談をとおして栽培技術の普及、担い手の育成に頑張っています。

### **ある害虫が県内で初めて発生するのを確認し、大被害を阻止されました…**

重要害虫のミナミキイロアザミウマの大発生を阻止して記録にまとめました。一度大発生するとナスやキュウリの産地として維持できなくなる害虫です。見つけたらその現場で農家に直接に指導を行って駆除しました。多くの生産者から感謝されました。

### **トマト産地を育てられました…**

今では豊松地区はトマトの産地として西日本では有名になってきました。行政と一緒に生産量や品質の向上を図り一大産地に育てることが出来ました。その実践の経過を農業技術体系にまとめることが出来ました。

授業ではどんな質問にも的確に答えて頂いています。現場感覚に裏打ちされた説明にはいつも感心させられます。JAの職員からも「藤本先生」と呼ばれているのを聞いて、みんなから尊敬されておられるとよくわかりました。今年度は研究科の皆さんと実際に作物づくりに取り組んでおられます。

文責 学長 吉川

科目 謡曲

## 柳 井 保 人 先生

1934年（昭和 9年）福山市 生まれ

経歴

1953年（昭和 28年）高等学校卒業

同 年

郵政事務官に採用される

郵政研修所での教官等を務める

1955年（昭和 30年）謡曲の稽古を始める



### 謡曲の稽古を始めたのは…

やはり身近な環境が影響したのでしょうか。兄が稽古をしていたので自然にこの道に入っていました。

### 師匠との出会い…

重要無形文化財総合指定保持者で観世流職分の青木祥二郎師に師事して稽古に励みました。師匠からは謡曲だけでなく、苦労話やマナー、立ち振る舞いについて話していただき随分ためになりました。青木祥二郎師に引き続き今ではご子息の道喜師の指導をいただいています。

今では、「重習」（おもならい）の免状を取得することができました。

### 授業にあたって…

このままでは謡曲をたしなむ人が減ってきておりどのような形で存続できるか心配なところはありますが頑張ろうと思っています。学生の皆さんと挑戦していきたいものです。

### 座右の銘は…

「継続は力なり」60年以上稽古を続けていますが、毎月京都から教えに来ていただいている師匠について今も日々研鑽に努めています。教える立場になって余計に稽古が大切だと感じています。

### 健康について…

謡曲は暗記が基本です。師匠は200曲を超えるすべてを覚えておられます。脳の活性化にも大いに役立つと思います。さらに腹式呼吸は血のめぐりを促し健康に役立っています。ゴルフ・グラウンドゴルフも行っており私の健康法の一つです。

日本の伝統文化の担い手としての自負心、師匠に対する尊敬の念など強い気持ちを感じました。

文責 学長 吉川

科目 **木版画**

## **渡 辺 眞 造 先生**

1942年（昭和17年）倉敷市 生まれ  
経歴 1962年（昭和37年）高等学校卒業  
1993年（平成5年）ふくやま美術館  
木版画教室受講 池田勉先生の指導を受ける  
2003年（平成15年）退職  
受賞歴等  
1998年（平成10年）福山市美展 努力賞受賞（福山市へ寄贈）  
2006年（平成18年）福山市美展 優秀賞受賞  
2007年（平成19年）日本版画会展会員賞 受賞 東京都美術館



### **版画と出会いました…**

50歳になって版画を始めました。私は書道をしていたので年賀状は筆で一枚一枚書いていました。歳を重ねるごとに年賀状は増えていき自筆をするのは大変になってきました。版画だと一枚彫ればよいということで木版画教室の受講をすることにしました。

### **仕事中も版画のデザインが気になっていたそうです…**

一緒に習い始めた奥様からは厳しい批評があります。一緒にするというのは良いことだけではないですね。でも私はずっと続けました。取り掛かるのは遅いけれど、いったん始めると粘って続ける性格ですかね。

### **生徒さんから勉強することが多いそうです…**

生徒さんの発想や着眼点は個性的で学ぶことが多くあります。授業では、全員の学生さんと毎回一度は会話をしたいと思って頑張っています。

### **私を支えてきた言葉…**

画家 熊谷守一氏の言葉が心に残っているようです…

「へたも絵のうち」「わしゃあ国民のために何もしとらん」と言われて文化勲章を辞退されました。自分の尺度で絵画の作成に努力することが大切で、自分の感性を自分なりの表現方法で表すことかなと捉えています。

### **健康管理も盤石です…**

ジムに通って健康管理に努めています。腰の筋トレを中心に言い、おしゃべりも楽しんでおり心の健康にも気をつけています。

木版画の練習の開始は決して早くはありませんが多くの実績を挙げておられます。努力のたまものだと思います。今年度は、連続講座で木版画の指導をいただく予定です。

文責 学長 吉川

科目 **書道漢字**

## **江 草 有 山 （本名 悟）先生**

1936年（昭和11年）福山市 生まれ



### 経歴

1957年（昭和32年）市内中学校教諭として採用される

1996年（平成8年）市内小学校校長を退職

### 書道歴

中学校2年生から終生 岡田芦舟先生に師事する

高等学校の3年間 村上三島先生に師事し漢字の稽古に精進する

勤務しながら3年間、桑田笹舟先生に師事し仮名を習う

### 書道との出会い

#### 努力のたまものです…

高校の時に村上三島先生との出会いがありました。3年間は夜の稽古のために福山まで毎週通いました。当時のことです。町の灯りも街灯もほとんどありません。少しでも上達したいという思いで暗い夜道を懸命に自転車のペダルをこいだものです。

### 仕事との両立…

また、昭和46年から桑田先生に指導をうけた3年間は、夜遅く家が静まり返ったときが稽古時間であり、仕事との両立に苦勞しました。村上先生の言われる「一作 三千」は稽古の大切さを説かれた言葉で、常に心に留めて稽古を続けました。しかし、生徒の指導に毎晩奔走しており気分が高まった中での稽古であり、なかなか筆が進まない日々が続きました。

平成8年に広島国体が開かれたとき、漕艇競技の賞状の筆耕役に選ばれました。大会会場でリアルタイムの賞状づくりのために練習の時間がなく、どこの県が優勝してもいいように2か月ほど前から毎晩練習したものです。

### 健康のために

各種スポーツに取り組みながら健康維持に取り組まれています。

忙しい中でも稽古をかかさずずっと自己研鑽に努めてこられました。福山市のスポーツ指導員協議会の会長としてもご活躍中で、市民のスポーツの振興及び健康増進に尽力しておられます。文字通り「文武両道」を体現されている姿に頭がさがります。益々のご活躍を祈ります。

文責 学長 吉川

科目 **書道**かな

## **瀬尾可南舟（本名 薫）先生**

1948年（昭和23年）福山市 生まれ  
経歴

1966年（昭和41年）高等学校卒業  
家業に就く



### 書道歴

小学校2年生から高校卒業まで 岡田芦舟先生に師事する  
高校卒業後しばらくして坂田文香先生 三宅相舟先生に師事する

### 受賞歴

2001年（平成13年）毎日書道展大賞受賞  
広島県美展 入選多数  
福山市美展 入選多数

### 書道との出会い

**長いキャリアです。子どもの時から続けられています。…**

小学校2年生の時に習い始めました。中学校は書道クラブがなく美術クラブに属しており、高校で岡田先生と再会し高校の書道クラブで練習を始めました。岡田先生との再会は大きな意味をもったと考えています。

### 書道との再会

**母として、妻として、職人として とにかく凄い…**

家業に就いたことで仕事に懸命に取り組み、趣味や習い事にわき目を振ることはできませんでした。子どもが保育所に上がったころに、もう一度書道の稽古を始めることにしました。

家事、子育て、仕事にと目の回るような忙しさでしたが稽古にうちこみました。家族が寝静まった深夜が稽古の時間でした。朝早い仕事があったけれど寝る間を惜しんで稽古に打ち込みました。

### さらなる研鑽

**何事も「分相応」と思っておられるそうですが…**

自分で作った料紙で作品を残したいという気持ちから、独学で版木を彫り加工を続けて夢中で料紙を作り作品を仕上げました。試行錯誤して硬い版木を彫りました。とにかく粘り強く毎晩版木に向かいました。

料紙づくりからされるなんてすごい先生です。福山市北美協の事務局長としてご活躍されており、頭が下がります。 文責 学長 吉川

科目 詩吟

## 小山 錦<sup>きん</sup> 白<sup>か</sup> (本名 日出子) 先生

1939年(昭和14年)福山市 生まれ  
経歴 1958年(昭和33年)高等学校卒業  
同年 福山市役所に採用される  
1998年(平成10年)退職



### 受賞・経歴等

1968年(昭和43年)錦城流総師範小山城将師に師事  
1987年(昭和62年)広島県吟詠剣舞連盟吟詠指導者級 準々優勝  
1987年(昭和62年)愛国詩吟総連盟 吟士権者決定詩吟大会 出吟  
2003年(平成15年)錦城流大師範に推挙される

役職 (一社)詩吟朗詠錦城会 福山市松浜支部支部長

### 市役所に勤務しているときに詩吟に出会いました…

詩吟に興味はありませんでしたが、職場におられた小山城将先生から詩吟の大会に誘われました。錦城会の全国大会が当時の市民会館で開かれていたのです。詩吟は男性がするもので、作業服を着て大声で吟じるものと思っていたので、どちらかという避けたいと思っていました。

### 感動しました…

しかし、せっかく誘っていただいたので期待はしませんでしたでしたが聞きに行くことにしました。そこで今までの固定観念がひっくりかえりました。背骨のすっと伸びた女性が素晴らしい声で「ひめゆりの塔」を堂々と吟じていたのです。感動を受けると同時に何とも言えないショックを受けました。

その時から先生の家で市役所の同僚たちと一緒に稽古を始めました。親にも怒られたことがないのに、先生から厳しく叱られながら稽古を続けました。

### 口伝の難しさ…

詩吟は古くから口伝で吟じられてきたものです。すべての曲は音階でいうとミファラシドミファラシドミの2オクターブでできています。口伝ですから一音の長さは取りにくいものですが、錦城流は一人の創始者から伝わっているため全国どこへ行っても音程は同じになります。稽古の時に音程が違っていると調子笛(チューナー)を持ち出して厳しく指導されました。

### 指導にあたっては…

本来詩吟の稽古は厳しいものですが、学生の皆さんとコミュニケーションを大切にして気持ちよく稽古ができるように心がけています。

文責 学長 吉川

科目 民謡

## 江草郁子先生

1936年（昭和11年）福山市 生まれ  
経歴

1952年（昭和27年）理容専門校卒業  
同年 福山で理容師のインターンとして修行を始める  
下安井で理容院を開業



### 民謡との出会い…

もともと、音楽が好きでしたが特定の先生に指導をいただくことはありませんでした。あるとき結婚の媒酌をすることとなり、結婚式で民謡を唄って祝おうと考えました。レコード店で曲の選定をしていた時に聞いたレコードに魅了されて民謡の世界に飛び込むこととしました。

### 師匠との出会い…

家業の理容室が順調に進み、子どもが生まれた後に藤川輝夫先生との出会いがありました。厳しくも温かい指導を受け一層民謡の練習にも熱が入りました。お客さんが帰られたらすぐに別室で練習を始めるといった状況で、一度指導を受けたら次に行くときは必ずマスターして教室に通うようにしていきました。

### 本條流の資格取得…

本條流の家元の資格取得のために東京に何度も通いました。六段階の資格取得のためには自らの学習が大切です。資格が高まるとともに自らに厳しく稽古に取り組みました。おかげで最高位の師範の称号をいただくことが出来ました。

### 授業にあたって…

授業はとにかく楽しくしたいという信念をもって取り組んでいます。上手下手は関係ない、しっかり声を出すことでストレス解消にもなり若返ります。北部市民大学で授業をする以外にも広い範囲で民謡を教えていましたが、だんだんと教室を減らしていました。でも、つくづく学生さんと触れ合って楽しく授業をすることが私の健康法だと思っています。

自らに厳しい姿勢で体調管理に取り組み元気で指導をいただいています。好きな民謡をこのように教えることができるのは師匠のおかげと感謝されており、益々元気で活躍されることを祈っています。

文責 学長 吉川

科目 **俳句** 名誉講師 (2019年4月から)

## 勝田清子先生

1936年(昭和11年)府中市 生まれ

経歴

1954年(昭和29年)高等学校卒業

同年 銀行に就職

1985年(昭和60年)退職

同年 松田多朗氏に師事して俳句を始める



### 俳句は人生の「受け皿」…

退職後、NHK文化センターで俳句に出会いました。俳句がその後の母の介護や自身の病気等々、挫折や迷いの「受け皿」になってくれました。俳句は私のささやかな生の証でもあります。

### 句会は鍛錬とお互いを認め合う場です…

市民大学の授業は「句会」がメインです。純粹な心で触れ合えるこの「句会」は、各々の個性の輝く場であり、句境を深める貴重な時間です。

俳句には一人一人の個性がはっきり表れます。それを活かし伸ばしていくことに心を置いています。

### 「好きなこと」をして生きていく…

この年になり「ガマン」や「努力」など自分を強いることはしんどくなりました。たまたま出会った俳句との相性が良く「これからは好きなことだけをやって生きていく」という私の信条に合致しました。この幸運に感謝です。

### 健康づくりは羽目を外して笑うこと…

落語が大好きです。米朝さんが亡くなられたときはがっかりしました。寄席では前列に陣取り、はた迷惑も考えず声をあげて笑います。その後は当分快調です。

今でも夏井いつき先生の講演を聞きに松山まで出かけて勉強をしております。さすがですね。

小学校とのコラボ1年目の昨年7月には駅家小学校の6年生の国語科の授業で俳句の指導をしていただきました。子どもへの指導は初めてということでしたが専門的な話もかみ砕いて話していただき、楽しくよくわかる授業でした。

文責 学長 吉川

科目 古典

## 落 健 一 先生



1938年（昭和13年）岡山県 生まれ  
経歴 1963年（昭和38年）広島大学大学院修了  
同 年 岡山県児島高等学校教諭として採用される  
1965年（昭和40年）広島大学附属福山高等学校教諭  
1999年（平成11年）定年退官

### 国語教師として

#### 政治家 医師 研究者 官僚など多くの卒業生に慕われておられます…

岡山県立児島高等学校で教師としてのスタートを切り、恩師からの助言によって広島大学附属福山高等学校に異動されました。以後8千人の卒業生を送り出し、数多くの教え子は、県内はもとより全国、海外であらゆる分野で活躍しており、今でも個人的な付き合いだけでなく同窓会へ招かれるなど、皆さんから慕われています。

### さらに専門性を磨くために

#### 豊かな知識の源が分かりました…

広島大学の清水文雄教授（古典専門）藤原与一教授（言語学専門）から強い影響を受けました。清水教授は学習院大学から広島大学に移ってこられ、今上天皇の恩師として活躍されていた方です。

### 人生の転機

#### 大学3年生の夏のことだそうです…

東京大学の時枝誠記教授（言語学）の東京のご自宅をお訪ねした時に先生のおっしゃった次の言葉が転機となり、以後の教師生活、研究生活に大きな影響を受けました。

「研究は、スペキュレーションです」（speculation 投機 仮説）

### 健康のために…

わずかなお酒と、市民大学で学ぶ意欲の旺盛な学生の皆さんと接することが元気の源です。

当市民大学、NHKの文化センターなどでご活躍は皆さんご存知の通りです。古典の日に関する法律が成立した平成24年に、福山市では11月1日に「古典の日」に関わる行事を行いました。落先生の古典の講座です。法律ができた年から始めているのは、福山市以外では京都市などわずかです。落先生のご功績は大変大きいものがあります。今年度も「源氏物語」の連続講座を開催いたします。どうか楽しみにしてください。 文責 学長 吉川

科目 **生け花**

## **桑 田 美 紀 子 先生**

1944年（昭和19年）福山市 生まれ

### 経歴

1965年（昭和40年）大学を卒業して就職する

1968年（昭和43年）嵯峨御流の稽古を始める

1994年（平成6年）正教授を拝受する

2004年（平成16年）退職



### **嵯峨御流との出会い**

学生時代に嵯峨御流と衝撃的な出会いがあったそうです…

周りの人は池坊を学ばれている方が多かったのですが、そんな時に花展で「景色生け」に出会ったのです。改めて流派の看板を見ると嵯峨御流とありました。故郷の景色を切り取って、花器の中にそれが表現されているのです。しばらくはその場から離れることができませんでした。

出会いはありましたが、しばらくはわき目も振らず仕事に一生懸命取り組んでおり、いつしか生け花からは遠ざかっていました。

### **恩師との出会い**

昭和43年の田上春甫先生との出会いがあったそうです…

「花壇にスイセンがあるので、花を生けましょう。取ってきてください」桑田先生は、花だけを切り取って部屋に持って帰りました。田上先生は「花だけでなく蕾もいりますよ。根元から切ってきてください」丁寧に生けられました。その花が素晴らしいのです。私もぜひ生けてみたいと思って習い始めました。

### **恩師の教え**

**田上先生は芯の通った方だったようです…**

「習うときは、『へんか』しない。素直に聞きなさい」と厳しく指導を受けました。普段は優しい先輩でしたが、生け花になると師匠に教えを請うといった状況でした。

### **健康のために**

脚腰を鍛えるために、できるだけ歩くことを心掛けています。

働きながら地道に稽古を続けてこられました。「素直に聞きなさい」という師匠の言葉は芸事で言われる「守 破 離」の教えに則ったものでしょう。

文責 学長 吉川

科目 **陶芸**

## **桑原みさお先生**

1942年（昭和17年）福山市 生まれ  
経歴

1961年（昭和36年）陶芸の勉強を開始

1966年（昭和41年）NKK入社

1997年（平成9年）退社し自宅に窯を設置

受賞歴等について

1988年（昭和63年） 2003年（平成15年）

伝統工芸展入選

1979年（昭和54年） 1986年（昭和61年） 2005年（平成17年）

広島県展大賞



### **陶芸との出会い**

#### **独学で始めました…**

小さい頃から古墳や骨董が好きで、弥生式土器の破片に興味がありました。自然に作陶に関心に移り自己流で焼物を始めました。会社では職場の仲間と一緒に同好会を作り、会社からも認められるクラブ活動に発展させました。仕事にも努力してきた結果と思っています。窯づくり、発表の場の選定などを積極的に行い以後の活動の基礎作りができました。

### **座右の銘**

「**名利共に休す**」… 名誉とお金はほどほどに自分の身の丈にあった暮らしぶりこそ大切といった言葉と理解しています。好きな陶芸をずっと続けていきたいと考えています。

「**無 功 徳**」…この気持ちが大切だと考えてライオンズクラブに入会しました。地域の安心・安全に奉仕する気持ちで活動を続けています。

### **健康のために…**

好き嫌いをせずになんでも食べるようにしています。特にタンパク質の肉や魚を食べています。お酒も適度に楽しんでいます。音楽を聴き働くことを楽しみ若者たちのグループと活動することも元気の秘訣です。

いつも活動的で元気潑刺です。みんなで作品を仕上げ、窯出しをするときの先生のご活躍は想像できるような気がします。今も学生の皆さんを指導しておられる元気をいつも頼もしく思っています。 文責 学長 吉川

科目 **油絵**

## **和田 貢 先生**

1927年（昭和2年）福山市 生まれ

### 経歴

1949年（昭和24年）師範学校卒業

1992年（平成4年）県内小中学校の教諭を勤め

福山市立福山女子短期大学教授を最後に定年退職

1999年（平成11年）アトリエを福山から東京に移す

2008年（平成20年）福山に帰郷

### 受賞歴等

県地域文化功労者表彰

第12回 24回 日展特選 日展会員

第35回 日展会員賞受賞

東光名誉会員



**集大成の画集**…師範学校に入学してから油絵を学び始め、2016年（平成28年）に初めて発刊された画集は鞆の風景やサーカスの幕間などが掲載されていて画業70年間の集大成となっています。

### モットー

#### **自分は未完の人間…**

東京へのアトリエ移転は、たくさんの作品に触れいろんな作家に直接出会って話を聞く機会を得るため、常に学び続ける姿勢だと思います

#### **生まれ育った地 描いていく…**

「絵を描いてきた者として、生まれ育ったこの福山を描いていく必要があるのではないか」（本人の言葉）原点への回帰と共に故郷への愛着の現れでしょう。

### 健康のために

毎日3000歩～4000歩は歩くことが目標

階段の利用は健康維持の秘訣

北部市民大学が発足後、間もなくから講師を務めていただいています。駅家のみなさんの学ぶ場を確保するといった生涯学習の機会確保のために、まさにボランティアの気持ちを発揮されて講師を引き受けていただきました。

まだまだ元気な和田先生の益々の活躍を期待しています。

文責 学長 吉川

科目 **演歌**

## 二代目 **本 條 秀 輝**（本名 **藤川陽子**）先生



1965年（昭和40年）福山市 生まれ

経歴・受賞歴等

1979年（昭和54年）家元主催の舞台初出演

1984年（昭和59年）本條流家元の内弟子となる

1987年（昭和62年）日本郷土民謡協会広島県大会総合優勝

1990年（平成2年）本條流講師就任家元の代行として全国各地で指導

1992年（平成4年）（財）日本民謡協会中国地区大会総合優勝

1994年（平成6年）国民文化祭みえ に広島県代表として出演  
とやま ひろしま ふくおか大会などに出演

1999年（平成11年）二代目本條秀輝を襲名

2001年（平成13年）二代目襲名披露公演をリーデンローズで主催

2003年（平成15年）（財）日本民謡協会から民謡貢献賞受賞

2004年（平成16年）御調町から文化振興表彰受賞

2005年（平成17年）俣奏楽演奏会で家元，人間国宝中村雀右衛門氏  
ほかの皆さんと共演（国立劇場）

その他多くの賞を受賞

役職

本條流民謡さざなみ会，藤川流民舞さざなみ会，さざなみ歌謡学院各主宰  
三味線本條流直門師範 本條流幹部・中国四国地区代表

### 早くから音楽の練習を始められました…

4歳には音楽教室に通い始め、6歳になると早くも専門的に勉強を始め、  
河村美智江先生からレッスンを受けるようになりました。中学校に入ると  
より専門的になり作曲や楽典の学習を始めました。

### 内弟子の経験を経てさらに力量を高められました…

家元主催の様々な舞台に歌手，三味線奏者，和太鼓奏者として数多く出  
演しました。NHKの番組や各種レコーディングにも参加しました。平成  
18年にはさざなみ会 35周年の記念公演に家元をお招きして大々的に催す  
ことができたことを喜んでいきます。

広島県中学校音楽研究大会にて県教育委員会の依頼によって「日本の民謡  
とその変遷」について講演されました。お弟子さんだけでなく広く邦楽の指  
導をしておられることに感心しました 文責 学長 吉川

科目 **パッチワークキルト**

## **坂 光 真 由 美 先生**

1954年（昭和29年）福山市 生まれ  
経歴



1977年（昭和52年）独学でパッチワークの勉強を始める

1985年（昭和60年）チャクススクール大阪校入学  
同 年 キルトタイム開講（私塾）

1995年（平成7年）日本手芸普及協会指導員資格取得  
受賞歴等 2001年（平成15年）東京キルトフェスティバル入選  
広島平和キルト展 2回入選  
東京キルトフェスティバル 4回入選  
キルトタイム作品展 11回出品

### **パッチワークとの出会い…**

元々手芸が好きで人形などを作っていました。子どもが生まれたことで男の子に似合うロンパースを制作しました。そんな時、月刊誌「美しい部屋」でパッチワークに出会い独学で勉強を始めました。三角つなぎ四角つなぎをしながら色合わせや寸法合わせに苦勞しながら工夫を重ねながらの制作でした。

昭和60年からは月に1度、大阪の専門学校で勉強を始めました。

### **座右の銘**

**「ゆっくり 休まず 諦めず」美空ひばりの言葉から…**

パッチワークの作成に当たっては心のゆとりが必要でして、粘り強く続けることが大切だと思っており、この言葉を大切にしています。作品制作には1年以上かかることもあり、諦めずに続けることで完成した時の喜びは格別です。

### **健康のために**

**健康には人一倍気を使っておられます…**

家族のために減塩調理や野菜中心の献立づくりなど食育の勉強中です。ウエイトコントロールをして健康づくりをしています。週に3日の7000歩のウォーキングを欠かさず続け太極拳もしています。

日本手芸普及協会の資格をいち早く取得され、パッチワークの先駆けとして活躍されています。学生の皆さんを大切にしながら明るい雰囲気の中で指導をいただいています。ブログを開設されていますので「ふくまゆ」で検索してみてください。

文責 学長 吉川

科目 **水彩画** 名誉講師 (2019年4月から)

## 光 成 元 秀 先生

1931年(昭和6年)福山市 生まれ

経歴

1946年(昭和21年)高等学校卒業

同 年 郵便局に就職

1989年(平成元年)退職

受賞歴等

日展 5回入選

白日会会友



### 画業について

新制の広島県立府中高等学校の第1期生の卒業。美術クラブの初代部長として活躍し、以後の府中、芦品などの美術振興や人材輩出の基礎を担うこととなったようです。

就職後も絵画に対する情熱を持ち続け、藤井軍三郎先生、和田貢先生に師事して勉強を続けた。郵便局の仕事のデジタル化や管理的な立場での役割を背負うなど、40年近く続けた絵画の修行ができにくくなったことで退職を決断されました。

その後は、信州、北海道、九州のスケッチ旅行で描いた作品を中心にした展覧会を画廊「たつき」で9年間開催され、その後全国規模の団体である白日会に所属して活躍しておられます。

### モットー

#### 「地域で文化振興」

77歳で日展への出品を取りやめ地域での美術振興に力を尽くされます。福山市美術協会理事や福山市北部美術協会の理事長等を歴任され地域の文化振興のために尽力しておられます。

### 健康のために

食事に気を使い、野菜を食べるようにしているそうです。

全くおごることのない光成先生は水彩画の講師をされる前には北部市民大学の学生として皆さんと一緒に学んでおられました。演歌や民謡などの科目の受講もされていたようです。でもやはりご専門の絵画から離れることは周りが許されなかったようで、日展5回の入選のキャリアを存分に生かして水彩画のご指導を頂いております。

文責 学長 吉川

科目 **水彩画**

## **村 上 幸 子 先生**

1941年（昭和16年）福山市 生まれ

経歴

1963年（昭和38年）大学教育学部卒業

同 年

教員に採用される

東中など市内の小中学校を歴任

1999年（平成11年）退職

受賞歴等

1999年（平成11年）日展初入選 計7回入選

東光会会員 福山市美術協会会員 神辺美術協会会員



### **絵との出会い…**

子どものころから絵を描くのが好きでした。小学校2年生の時に「月見」の絵を教室に飾ってもらってうれしかったのを覚えています。中学校では美術部に入り、初めて油絵具に触れた時の感動は忘れません。スーッと伸びる感触、独特のにおい、一生絵を描き続けたいと思ったものです。中学校の三好文子先生、高校の小寺照久先生は絵を描くきっかけを作っていた恩師です。

### **和田貢先生に育てられました…**

三好先生に紹介して頂いた和田貢先生との出会いは自分にとって一番大きな出来事となりました。展覧会の出品前にはアトリエに出かけて夜遅くまで指導をしていただきました。今あるのは先生のおかげです。

退職して絵に専念できると思ったときに和田先生が東京に拠点を移されました。強いショックを受けると同時にいかに先生に頼り切っていたかという自らの甘さを思い知らされました。しかし、先生に教わった学び続ける姿勢はこれからも持ち続けたいと思います。

### **教員をしながら制作を続けました…**

教員、子育て、そして絵を描き続けることは大変でした。しかし、ある展覧会で「先生に褒められたので絵が好きになりました。先生のおかげです。」と教え子が話してくれました。教師冥利に尽きます。

### **指導に当たっては**

「今日は市民大学で授業があるから楽しみだ」といった目標をもって通っていただき、絵を描く喜びや生きがいを感じていただきたいと思っています。

文責 学長 吉川

科目 紙バンド手芸

## 井上美紀子先生

1949年（昭和24年）福山市 生まれ  
経歴

1967年（昭和42年）高等学校卒業  
同年 銀行に就職



### 紙バンドとの出会い…

若い時から指先を使った物づくりは好きだったが、大人になってからは仕事一筋でわき目も振らず家業に精を出した。仕事も一段落つきボランティア仲間と公民館活動をする中で紙バンド手芸を始めました。

### 独学しかなかった初期に…

出会った当時は手芸用の紙バンドがなくて、荷造りひもを活用してかごなどを作っていました。茶色の紙で作っても変化がなく決して見栄えのするものではありませんでした。色を塗ったり他の素材を混ぜたりしながら作品づくりをしていました。参考にするものはなくて荒関まゆみ先生の書かれた編み方の本だけでした。私にとっての師匠は荒関さんの本です。

### 困難ばかりの稽古…

本だけが頼りですから一つの作品をつくるのに大変な苦勞がありました。今思えば厳しい義父の言葉が市民大学で教えることができるまでに成長させてくれたのではないかと思います。当時家具会社を経営していた義父は私に「人の倍は働け」と経営者の妻のあるべき姿を厳しく教えてくれていました。私もそれに必死で応えていたのですが、その経験が独学の厳しさの克服につながったと思っています。

### 大切にしている言葉は…

「一期一会」共に楽しみながら学ぶことを大切にしています。指導者の立場になり多くの出会いの中で成長する自分を感じたり、作品が完成した喜びを共有出来たりしたことが私の一生の宝物です。

### 健康つくりのために…

生命の貯蓄体操を7年間続けています。

昨年度の北部市民大学活性化計画第1弾では駅家西小学校の手芸クラブの指導をしていただきました。「人の役に立ってうれしかった」と言っていただいたときは私がうれしくなりました。

文責 学長 吉川

科目 コーラス

## 井上美保子先生

1954年（昭和29年）福山市 生まれ

経歴

1977年（昭和52年）音楽大学ピアノ科卒業



### 音楽との出会い…

4歳のころピアノの稽古を始めました。親に「絶対ピアノをやめない」と言ったから習わせてもらえることになりました。でもその時のことをあまり覚えていません。声楽との出会いは高校生の16歳のころでした。

### 音楽は喜びも悲しみも包み込み人生の幅を広げるもの…

音楽は人生のすべてと思って50歳までにはクラシック音楽を極めるよう努力するという目標を立てていました。幅広くさらに深く音楽の勉強に励むよう、20歳台からはクラシックバレエも習い、40歳台は声楽に磨きをかけました。自らが師事した先生から学んだことを地域の子どもたちに教えるためにピアノ教室を開き、多くの音楽愛好者を育てました。

### 音楽は若き日を思い出させる力があります…

音楽の力を再認識した思い出があります。50歳になってから介護施設で音楽を通したボランティアを10年間続けるとともに、ピアノの出前コンサートは今でも続けています。その会場には全く寝たきりの状態の老人もいましたが、コンサートが終わったらその人が手をたたいて喜んでいました。ほとんど反応がない人と聞いていたのですが、何か心に響いたに違いありません。やっぱり音楽は素晴らしいと思いました。

### 授業にあたって…

市民大学で皆さんとコーラスをするなかで一番うれしいことは学生の皆さんから「楽しい」と言ってもらえることです。「コーラスから帰っても寝るまで幸せな気分です」と言ってもらったときのことは何度思い出してもうれししいです。自分の声が出なくなっておしまいなので、これからも努力を続けてまいります。

音楽は人生そのものとの信念をもとに、教えるためには「自ら学ぶ」ということを確実に実行されている先生です。今でも家事のあいまに、毎日発声練習をされているそうです

第1回の市民大学の講師の先生方のキャリア展ではロビーコンサートをしていただきました。  
文責 学長 吉川

科目 コーラス (伴奏)

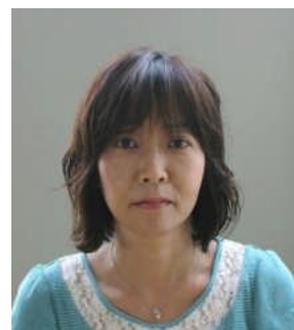
## 内海裕美先生

1966年(昭和41年)福山市 生まれ

経歴

1986年(昭和61年)大学ピアノ科卒業

同年 音楽教室講師を始める



### ピアノとの出会い…

小学校に入ってからピアノの練習を始めました。もともと音楽が好きだったことと友達がピアノの練習を始めたと知ってから自分も親に頼んで音楽教室へ通い始めました。12歳からは Hammondオルガン(電子オルガン)も始めて楽しく練習をしました。オルガンの練習や指導は大変楽しいものです。

### 小学校では…

駅家東小学校の開校セレモニーでアコーディオンの演奏をし、音楽発表会では合奏のピアノパートを受け持ってみんなの前で披露しました。

### それなのに中学校では…

中学校ではバレーボール部に入りました。普通ならピアノをしている子は指先を使うバレーボール部には入りません。結局手首を痛めてバレーボールは中断です。楽器店にギターを買おうと出向いたときに Hammondオルガンに出会いました。それから吹奏楽部に入るとともにオルガンの練習をはじめました。やっぱり既定路線だったような気がします。

### 北部市民大学で教えるとともに…

子どもの初期の音楽教育について学ぶためにリトミックの勉強をしました。音楽の基礎、教える基本を再認識しました。そして今では同級生と和太鼓のグループを作って老人ホームなどで演奏するボランティアもしています。

### 授業では…

自分が歌っている気持ちで伴奏するようにしています。楽しくて皆さんから元気ももらっているように思っています。

学生がどんな曲をリクエストしてもきちんと伴奏されます。素晴らしい力量だと思っています。豊かなキャリア、いわば音楽人生のすべての経験によって伴奏ができるようになるのだそうです。門外漢の私には理解できない話です。

文責 学長 吉川

科目 粘土アート

## 重政信明先生

1949年（昭和24年）福山市 生まれ

### 経歴

1973年（昭和48年）大学卒業 教員に採用される

1987年（昭和62年）木彫の稽古を始める

2010年（平成22年）退職

### 受賞歴等

1999年（平成11年）日展入賞 12回 日展会友

2000年（平成12年）日彫展 優秀賞受賞 入賞多数 日彫展会員

2018年（平成30年）日展特選



### 木彫の松岡高則氏と出会う…

彫塑が好きだったからでしょうか松岡高則氏と出会いました。勧められるまま木彫に取り組み 40歳の時に広島大学の松本隆司氏と出会って彫塑を始めました。毎週土曜日に 20年間広島まで通って指導を受けました。今でも岡山大学の上田久利氏に指導を受けています。

### 教員をしながら制作を続けました…

習い始めた時、土曜日は半ドンでした。授業が終わったら急いで福山駅まで行き、列車に飛び乗って広島へ向かいました。仕事があったので普段は彫塑のことは考えられません。列車の中で構想を練りながら通っていました。

### 「分かった」と思った瞬間に喜びを感じるそうです…

夜に塑像に向かってヘラで研ぎだしているときにふと「分かった」という瞬間があります。そんな時はうれしいですね。彫塑を始めた頃の「分かった」と今のそれは大きな違いがあるでしょう。「毎日の積み重ね」が大切です。粘り強く続けることで願いが叶うし人生を変えてくれるものと思います。

### 健康のために…

自分の畑で作った野菜を毎日どんぶり一杯食べるようにしています。そしてしっかり歩くよう心掛けています。たまには餡のたっぷり入った饅頭を腹いっぱい食べたいですね。

広島や岡山におられる師事した先生のところを 30年近く毎週かかさずに通って腕を磨いておられることをお聞きし心から敬服しました。学校では特別支援教育の専門家として活躍されました。 文責 学長 吉川

科目 吹き矢

## 大 原 正 教 先生

1951年（昭和26年）福山市 生まれ  
経歴

1974年（昭和49年）大学卒業

同 年 アメリカのアリゾナに語学留学

1976年（昭和51年）帰国 各種の事業を手掛ける

2007年（平成 9年）講師として指導を始める



### アメリカ留学は広い視野を持たせてくれたそうです…

大学を卒業すると同時にアメリカに留学しました。アリゾナ州の大学ではアメリカの各州、メキシコや南米からなど各地からの友人と出会いました。日本からの留学生も多くいて今でも関東や東海などに住んでいる友人とラインをするなど長い付き合いをしています。

### アメリカでの体験は衝撃の連続だったようです…

西部劇に出てくるような砂漠にサボテン、空っ風の吹く乾いた風などは映画を彷彿とさせます。アメリカでの友人は皆なユニークでした。車でラスベガスに行って賭博をしたものです。一度や二度ではありません。引き出すことのできない貯金をたくさんしてきました。

### 日本に帰ってからの先生です…

焼肉屋やゲームセンター、Gパン屋など多くのお店を開きました。焼肉屋では食べ放題を行い連日いっぱいのお客さんに来て頂きましたが価格を安く設定をしすぎたのでしょうか、一年余りで店をやめました。みんなより3歩前を行っていたように思うのですが儲けられない性分です。

### 好きなことをしてきたと言われていますが…

失敗の中に学ぶことが多かったと思います。商売をしているうちに体調を壊し、友達の会社で働くようにしました。今は「一病息災」の気持ちで自己管理をしています。

### 吹き矢は健康にいいですよ…

腹から息を一気に出しきり、そして深く吸い込む一連の動作は肺を強くすると思います。階段の上り下りが楽になった人もいます。

「私は修行の様なことをしていない」と言われましたが、先生の経歴は多彩です。コミュニケーション力豊かで行動力に長けているだけでなくスケールの大きさも感じます。 文責 学長 吉川

科目 吹き矢

## 大原 敦子 先生

1956年（昭和31年）岡山県 生まれ  
経歴

1976年（昭和51年）大学卒業

同年 大手総合化学繊維会社に就職



### レクリエーション吹き矢との出会い…

吹き矢をしている神戸の友人が「関西で面白いスポーツが流行っているよ」と教えてくれました。聞いたことがなかったことからどのようなものかと好奇心が湧き出たので早速現地に出かけました。「おもしろそう」と感じたので始めたのですがそれが出会いです。

### 友人の話で神戸まで行くなんて大変行動的な先生です…

思いついたらすぐに行動してしまう私は、習って帰ったらすぐに練習です。仲間を誘い公民館で練習を始めました。平成22年にはローズコムでの体験講座の活動が新聞で紹介され、同じ時期に協会の公認インストラクターの資格を取得しました。

### 夫妻で協力しながら練習を続けられました…

同じ競技をしていますが、互いに干渉しないようにしています。何をしようと互いに口は出しません。自分の行動は自分で責任を取るようになっていますから。互いに認めているということでしょうか。しかし、ここぞというとき、子育てで行き詰った時などは相談しますし、私が暴走をしそうになったら止めてくれます。

### モットーは「人間万事塞翁が馬」だそうです…

長い人生、何が起きるかわかりません。何が幸いして何が禍するのか分からないのが人生です。数年前に体調を壊して辛く悲しい時にたくさんの人の温かさをいただきました。こうして元気に過ごすことができるのは本当に幸せです。

### 健康に過ごすために…

「腹八分」につきますよ。

レクリエーション吹き矢を夫妻で受け持っていていただいています。定年後の夫婦円満は、夫は昼食時には家にいないか妻のために料理をすることと聞いたことがあります。互いに信頼しているお二人には必要のないことなのでしょうね。

文責 学長 吉川

科目 **ペン習字**

## **寺岡照芳先生**

1941年（昭和16年）福山市 生まれ  
経歴

1959年（昭和34年）高等学校卒業

2001年（平成13年）退職



### **ペン習字との出会い**

#### **高校2年生の時にペン習字の稽古を始められたそうです…**

学校に慣れた2年生の時にペン習字クラブに入りました。それまではどのような字を書いても気にはなりませんでしたが、自分の字があまりうまくないことにふと気が付いたのです。さらに学校で毎日練習があるわけではなく、家に帰ってからも稽古ができることから入部しました。

### **青春らしいエピソード**

#### **字が上手な人にありがちな今では考えられないようなことです…**

ペン習字のクラブに入り少しずつ上手になり始めた時  
「好きな人が出来たので手紙を出したい。書いてくれないか」友達が言うではありませんか。得意な分野ではないのですが、何度も頼まれたので断わりきれずしぶしぶ引き受けました。若い時の照れくさい思い出です。

### **「分かる」ということ**

#### **行書が「分かる」まで5年がかかったそうです…**

現代ペン習字研究会の土居荒城先生の指導を受けてきました。熱心な指導に応え真面目に稽古をしました。さらに月刊誌に投稿をすることによって力がついてきたと思っています。

昇段にあたっては、楷書だけでなく行書も書かなくてはなりません。見てまねて毎日稽古をするのですが、なかなか上達しません。昇段できるようになるまで稽古を重ねましたが、行書が「分かる」まで5年の歳月を有しました。

### **大切にしていること…**

とにかく「続ける」こと。長くやっていたら何とかなるものです。高校時代に自分より上手な人はたくさんいました。今まで続けたのは自分だけです。愚直に続けてきたので何らかの財産が出来たものと思っています。

「石の上にも3年」 とにかく続けることで何かが見えてくると言われたことが印象的でした。 文責 学長 吉川

科目 **俳句** (普通科)

## 山 崎 英 治 先生

1955年(昭和30年)福山市 生まれ  
経歴 1977年(昭和52年)大学卒業  
国家公務員として採用  
1997年(平成9年)NHK文化センター 俳句講座を受講  
松田太郎先生に師事し「風雪」入会  
2008年(平成20年)「運河」入会  
2014年(平成26年)「運河」同人 俳人協会会員 大阪俳人クラブ会員  
賞歴 運河賞  
2012年(平成24年)選考委員に一席に選ばれる  
2015年(平成27年)編集長から四席に選ばれる  
2017年(平成29年)編集長から一席に選ばれる



### 俳句との出会い

#### **本が好きで、特に司馬遼太郎の本が好きだそうです…**

司馬遼太郎は歴史小説の中で金字塔を残された人です。それらの小説の中には短歌や俳句が添えられており、その解説がうまいんです。心情や様子になるほどなあというように実に的確に表現してあるのです。俳句を作ってみたいなあと思っていた時にNHK文化センターの講座の中に俳句があることを見つけ勉強することにしました。

#### **「馬酔木」が好きで続けられたそうです…**

もともと「馬酔木」は革新的な俳句を発表しており、高原に出かけたり登山をしたりして詠まれた俳句が好きでした。それを目標にして俳句づくりを続けてきましたが、同人が年齢をかさねることでその気風が変わってきたことで、他の結社を探すようになってきました。

#### **新しく「運河」に入会されました…**

茨木和生氏(俳人協会副会長)が主宰される「運河」はイノシシやタヌキも季語に使う斬新な俳風を持っていました。珍しいと思い結社に入会して活動を始めました。会員には名立たる文化人が多く全国の句会に参加して実力を発揮されていました。文化が根付き広がっていくのはこのような人たちの力が大きいのだということを実感しました。

若くて行動的な先生です。関西を中心に句会に参加されて実力を磨いてこられました。実際に俳句が作れるよう指導いただけます。 文責 学長 吉川

科目 **写真**

## **三 谷 豊 先生**

1956年（昭和31年）福山市 生まれ  
経歴 1977年（昭和52年）高等専門学校卒業  
福山市職員として採用  
2004年（平成16年）二科会に入会  
2017年（平成29年）定年退職



主な受賞歴

2005年（平成17年）二科展 奨励賞受賞  
2006年（平成18年）二科展 オリンパス賞受賞  
2008年（平成20年）二科展 日本発色賞受賞

### **写真との出会い**

#### **親から一眼レフカメラをプレゼントしてもらったそうです…**

中学生の時、仲の良い友達が写真部に入っていて、自然とカメラに興味を持つようになりました。高専入学時に親から念願の一眼レフカメラを買ってもらいました。カメラが手元に届いたときの感動は今でもはっきり記憶しています。

#### **高等専門学校に入学されると写真クラブに入ったそうです…**

高専では迷わずに写真クラブに入りました。学校行事や生活場面、風景などのスナップ写真を撮り高校生対象のコンクールにも応募しました。特にこだわったジャンルはなく、いろいろなものを撮影して歩いたものです。特にこだわって何かに集中して撮影するということはありませんでした。

#### **仕事をしながら写真を続けられました…**

特定の師匠はおらず、週末の仕事休みを利用し珍しい祭りがあると聞きつけると早速に出かけたり、紅葉の季節には朝早く起きて出かけたりしながら撮影し、市美展などにも出展しました。

#### **二科会に所属され会友になっておられます…**

以前は写真専門の写真協会に所属していましたが、フィルムからデジタルに変わったときに二科会に入会しました。絵画や彫刻もある美術団体の二科会は自分の活動に影響を与えてくれました。市美展、ふくやま観光写真コンテスト、福山市立動物園写真コンテストの審査も経験しました。

受講生と一緒に学び、皆さんの力量アップを図ってまいりますと、謙虚に語っていただきました。  
文責 学長 吉川

科目 シンプル ヨーガ

## 佐藤多美先生

1967年（昭和42年）島根県 生まれ  
経歴

1985年（昭和60年）高等学校卒業

2009年（平成21年）シンプルヨーガを始める

2013年（平成25年）シンプルヨーガ師範



### ヨーガとの出会いは遅かったようです

#### 高校を卒業したら親の反対を押しきってエステティシャンに…

両親は大学進学を進められたけれど松江市内でエステティシャンになって8年間仕事を続けました。力量もつけ信頼してくれるお客さんも多数出来て自分なりに充実感のある毎日でした。

#### 驚きの転向です…

しかし、「協奏曲」を観て建築士にあこがれました。主演の木村拓哉の建築士がカッコよかったのです。市内に建築士育成の専門学校があることが分かり、4月には入学しました。若い学生と一緒にする授業は難しい専門用語などの苦労もありましたが負けず嫌いな性格ですし新しいことへのチャレンジだったので楽しく勉強ができました。

住宅メーカーに就職してみると今までとは全く違っていました。業者からのするどい指摘や完成期限を切った仕事など厳しいものがありました。しかし大工や左官のおじさんは優しく、施工主の「ありがとう」の言葉は大変うれしくて、頑張って仕事を続けることができました。

### いよいよシンプルヨーガとの出会いがありました…

同じ会社に勤めていた夫が福山へ転勤したので、それに合わせて福山に転居してきました。知り合いがいないなかでの福山での生活でしたが、主人の実家に出向いたときに母がヨーガを勧めてくれました。成瀬グループに所属の森はまこ先生に師事して稽古を始めました。いったん始めるとのめり込む私の様子を見て先生から「本格的にやってみませんか」とお誘いを受けたことで勉強会に参加するようになりました。さらに1人でも稽古を重ね、鏡を見ながら技術を磨いていきました。少しずつ進歩して、ついにはインストラクターを目指すようになりました。

### 大切にしていること…

ベターッと開脚が出来るようになった人がいます。体が硬い人も「続ける」ことが大切です。ゆっくりで結構です。ちよつとずつの上達でいいのです。楽しく続けましょう。

文責 学長 吉川

科目 **絵手紙**

## **橋本久子先生**



1945年（昭和20年）兵庫県生まれ  
経歴

1964年（昭和39年）高等学校卒業  
同年 商事会社に就職

1968年（昭和43年）退職

講師歴等

1996年（平成8年）絵手紙協会講師

1997年（平成9年）東京大丸及び産経学園自由ヶ丘で講師

1998年（平成10年）群馬女子短大オープンカレッジ講師

1998年（平成10年）読売日本テレビ文化学園講師

その他 各地の郵便局，JAで絵手紙教室講師

サンシャイン池袋で産経新聞社のイベント講師

KKR新潟湯沢ホテルのイベント講師 他

### **明治生まれの父親に育てられました…**

厳格な父親に厳しくしつけられました。夕方は午後6時の門限に必ず間に合うように帰宅していましたし、食事のマナーにも厳しかったです。しかし、歳の離れた兄がやさしくかばってくれたのでいろいろな経験もできました。

ただ、絵画などの制作は好きでしたが門限が早かったので習い事はあまりできませんでした。

### **まずは鎌倉彫に出会いました…**

夫の転勤で10数回の転居を繰り返しましたが、その間に鎌倉彫をずっと続けました。日常使いのお盆や茶托、お椀など数多く作成し、展覧会に出品できるようになりました。

### **いよいよ絵手紙と出会いました…**

夫の転勤によって2年間だけ福山に帰っていたときのことです。たまたま東京に出かけたとき銀座の鳩居堂で行われていた展示会で絵手紙と出会いました。あまりもの素晴らしさに感動して、小池邦夫先生に直接「教えていただきたい」とお願いしました。最初は文通を通して教えていただき、絵手紙協会の設立後は、協会の評議員として運営にも参加しました。

### **学生の皆さんに…**

絵心があるかないかは関係ありません。今まで習ったことは忘れて「素」の気持ちになって取り組んでいただきたいと思っています。

文責 学長 吉川